散らされ、試練にたつキリスト者に

信仰にたって日々を過ごすように、と励ます「ヘブル書」

――――――― 大祭司イエスのもと、押し流されないように ―――――――

著者は。キリストニ、司祭職も関してまず力説する。祭司、あるいは、大祭司という言葉がキリストに当てはめられているのは、ヘブル書の大の特色である。読者は、キリストの贖罪のみ業に、十分に信頼していた。けれども、その祭司的性格と、祭司の現在の働きの十分な認識は、彼らの理解に登っていなかった様である[1]。

4：14 GNT :Econtej oun arcierea megan dielhluqota touj ouranouj(Ihsoun ton uion tou qeou(kratwmen thj omologiaj.

GNM :Econtej ecw vppanm1p oun oun ch arcierea arciereuj n-am-s megan megaj a--am-s dielhluqota diercomai vpraam-s touj o damp ouranouj(ouranoj n-am-p Ihsoun Ihsouj n-am-s ton o dams uion uioj n-am-s tou o dgms qeou(qeoj n-gm-s kratwmen kratew vspa--1p thj o dgfs omologiajナ omologia n-gf-s

のところから、大祭司の人物の教えは、7：28にいたって強調される.

7:28 o nomoj gar anqrwpouj kaqisthsin arciereij econtaj asqeneian(o logoj de thj orkwmosiaj thj meta ton nomon

律法は　だから　弱さを持つところの　人を立てて　大祭司とする、　けれど約束の言葉は　律法の後ろにあり

uion eij ton aiwna teteleiwmenon.

御子をして時にわたって完成された（ものとした）。

7:28 o o dnms nomoj nomoj n-nm-s gar gar cs anqrwpouj anqrwpoj n-am-p kaqisthsin kaqisthmi vipa--3s arciereij arciereuj n-am-p econtaj ecw vppaam-p asqeneian(asqeneia n-af-s o o dnms logoj logoj n-nm-s de de ch thj o dgfs orkwmosiaj orkwmosia n-gf-s thj o dgfs meta meta pa ton o dams nomon nomoj n-am-s uion uioj n-am-s eij eij pa ton o dams aiwna aiwn n-am-s teteleiwmenon. teleiow vprpam-s

その第一は、彼は人間でなければ成らなかった.（彼は人間から選ばれ、犠牲をささげるものとして立てられたものであった. すなわち、神は、キリストに受肉をさせることによって祭司の資格をお与えに成ったのである）

5:1 Paj gar arciereuj ex anqrwpwn lambanomenoj uper anqrwpwn kaqistatai ta proj ton qeon(ina prosferh dwra te

だから大祭司は皆、人の外へと　立てられ、人々のために神に仕えるために任じられたもので、目的は

kai qusiaj uper amartiwn(

罪のための　ささげものと　いけにえとが　捧げられる為である.

5:1 Paj paj a--nm-s gar gar cs arciereuj arciereuj n-nm-s ex ek pg anqrwpwn anqrwpoj n-gm-p lambanomenoj lambanw vpppnm-s uper uper pg anqrwpwn anqrwpoj n-gm-p kaqistatai kaqisthmi vipp--3s ta o danp+ proj proj pa ton o dams qeon(qeoj n-am-s ina ina cs prosferh prosferw vspa--3s dwra dwron n-an-p te te cc+ kai kai cc qusiaj qusia n-af-p uper uper pg amartiwn(amartia n-gf-p

その第二は、大祭司は、思いやることができなければできなかった.

祭司自身も弱さを身にまとっているので、任務にあたって、やさしい、思いやりが求められている。5：2

大祭司は、神に選ばれたものでなければならなかった．5：4-6
キリストを永遠から生み出した神が、彼を、永遠の祭司として選ばれたのであるから、キリストは十分な資格に預かっていたのである．詩2、5：4-6
大祭司は十分に備えられていなければならなかった．　5：7-8
キリストは涙を流されるほどに、試練においても、他のすべての同情においても、備えをされていた．

以上が大祭司キリストに関する、聖書の勧めと証であり．次に、これもこの書に多出する、「新しい契約」がもたらされていることに触れなければならない．そしてこの契約の批准は、「永遠の契約」にいたるのである．

13:20 ~O de qeoj thj eirhnhj(o anagagwn ek nekrwn ton poimena twn probatwn ton megan en aimati diaqhkhj
平和の神（がまさに）、
死人の中からよみがえらされた
契約の血（によって）
羊の大牧者（を）
aiwniou(ton kurion hmwn VIhsoun(
永遠の
私たちの主イエス（を）、
13:20 ~O o dnms de de cc qeoj qeoj n-nm-s thj o dgfs eirhnhj(eirhnh n-gf-s o o dnms+ anagagwn anagw vpaanm-s ek ek pg nekrwn nekroj ap-gm-p ton o dams poimena poimhn n-am-s twn o dgnp probatwn probaton n-gn-p ton o dams megan megaj a--am-s en en pd aimati aima n-dn-s diaqhkhj diaqhkh n-gf-s aiwniou(aiwnioj a--gf-s ton o dams kurion kurioj n-am-s hmwn egw npg-1p VIhsoun(VIhsouj n-am-s

著者の論点は明白であって、もはや、「新しい契約：diaqhkhj neaj」にあっては、モーゼの契約に頼ることはない。キリストにおいて、よりすぐれたものを、お与えに成ったからである．イエスはただ一度果たしてくださった、大祭司としての職務によるのである．
ヘブル書には、神の前での義に関する記述も多い。いけにえは血におけるいけにえで、
Hebrews 6:9 Pepeismeqa de peri umwn(agaphtoi(ta kreissona kai ecomena swthriaj(ei kai outwj laloumen.
しかし　あなた方に
私たちは勧めましたが　愛する人々、　救いの確保にかかわる
よりよいことで、　そのように言う

Hebrews 6:9 Pepeismeqa peiqw virp--1p de de ch peri peri pg umwn(su npg-2p agaphtoi(agaphtoj ap-vm-p ta o danp/danp+ kreissona kreittwn apman-p kai kai cc ecomena ecw vppman-p swthriaj(swthria n-gf-s ei ei cs kai kai ab outwj outw ab laloumen. lalew vipa--1p
それは、カルバリにおいて流され、伝に入れられたものではなかった．
そのありさまを定義するときに用いる、diaが「・・・によって」と言う意味で用いられ、meta（・・・をもって）ではない。「手段を示す」、が使われていることは、7節の、ou cwrij（携えずに）において受け取られるならば、「地上の大祭司は、物質的な血を携えていったが．キリストはご自身の血によって、神のみ前に入っていかれた．しかし我々は、その血を有効な有効なものとされた仕方についての物質的説明をここに導入することによって、義とされているわけではない」[2] ことが語られている。

その他にも、キリスト論と並んで、神の御子（１：３）であることと贖罪論。受肉（２：１４など)、聖霊理解、そして神論が。そして際しなるキリストについて、メレキゼデクや、エレミヤの契約について触れられ

ていることに、考察を進めることは大切である．[3]

読者は、ヘブル的信仰に精通しており、迫害の中で、信仰において危機に立ち、後退してゆく傾向の中で、日常においても、乱れていることに著者は、警告を発しているのである．

著者に着いては、はっきりしていないが、しっかりとした文体と、説教的な内容であり、ルターはこれをアポロ（使徒１８章）と解釈した[4]．プリスカ（使徒１８章）というハルナックの説、他にもいろいろな理解があるが、パウロだと仮にすれば、

ガラテヤ、4:20 できることなら、わたしは今あなたがたのもとに居合わせ、語調を変えて話したい。あなたがたのことで途方に暮れているからです。

とすることも可能である[5]。

書簡中、重要な位置に置かれ、今日の教会においても、その礼拝と信仰において、再確認されなければならない媚言葉である．「（大祭司）イエスはキリストである」、そしてその一度限りの、効力のあせる事のない購い業は今もわれらに与えられていると言う、二つの点において、現在の福音理解において重要である．

主の前で我々がしるしと、御言葉にあずかるとき、そのことのみに集中することの大切さをキリストによって教えている[6]。今も新しい契約の批准は有効なのである．

次に日常における信仰生活という点である[7]．とともにその積極性である．

---

[1] 著者が、重視してキリストを説明するときに、祭司について述べている、キリストの祭司職である．アロンはよいものであったがキリストに比して、不十分なものであった．メレキゼデク（5：6,10,6：20-7：19など）について記す．これは予型であり、アロン系の祭司ではなく、王なる祭司であると強調している。この言葉は読者によく理解できる言葉であったことが理解できる．

[2] B.S., Wescott, ”The Epistle to the Hebrews”

また、これらの部分には、大きな意味を持つ異文資料はない．

意味上最も大きな異文資料は、資料としての価値そのものは小さいが、

GNT Hebrews 2:9 ton de bracu ti parV aggelouj hlattwmenon blepomen VIhsoun dia to paqhma tou qanatou doxh kai timh estefanwmenon(opwj cariti qeou uper pantoj geushtai qanatou. における cwrij であろう、vg^{ms},0243、そのた。恵みのうちに、ではなく、べつに．．．、と言う意味になり、何も携えぬ祭司性を示しているように感じさせる。

[3] ここで使用している、語形コードは、HERMENEUTIKA 社が BibleWorks において採用している Friberg のコードで、次に添えます。

The BibleWorks Coding Scheme

This is the scheme used in the BibleWorks Morphology Databases BNM, BLM and BGM.

Noun N

Case	Gender	Number	Type
n nominative	**m** masculine	**s** singular	**c** common noun
g genitive	**f** feminine	**p** plural	**p** proper name
d dative	**n** neuter		
a accusative			
v vocative			

Pronoun R

Type	Case	Gender	Number
p personal	**n** nominative	**m** masculine	**s** singular
r relative	**g** genitive	**f** feminine	**p** plural
d demonstrative	**d** dative	**n** neuter	
q interrogative	**a** accusative		
i indefinite			
t intensive			
x reflexive			
e reciprocal			

Def Article D

Case	Gender	Number
n nominative	**m** masculine	**s** singular
g genitive	**f** feminine	**p** plural
d dative	**n** neuter	
a accusative		

Verb

Participle V

Mood	Tense	Voice	Case	Gender	Number
p participle	**p** present	**a** active	**n** nominative	**m** masculine	**s** singular
	f future	**m** middle	**g** genitive	**f** feminine	**p** plural
	a aorist	**p** passive	**d** dative	**n** neuter	
	i imperfect	**e** middle/passive	**a** accusative		
	x perfect		**v** vocative		
	y pluperfect				
	z future perf				

Infinitive

Mood	Tense	Voice
n infinitive	**p** present	**a** active

			f future a aorist i imperfect x perfect y pluperfect z future perf	m middle p passive e middle/passive		
	Other	Mood	Tense	Voice	Person	Number
		i indicative d imperative s subjunctive o optative	p present f future a aorist i imperfect x perfect y pluperfect z future perf	a active m middle p passive e middle/passive	1 1st person 2 2nd person 3 3rd person	s singular p plural

Adjective	A	Type n normal s possessive d demonstrative q interrogative i indefinite t intensive c cardinal number o ordinal number m numeral	Case n nominative g genitive d dative a accusative v vocative	Gender m masculine f feminine n neuter	Number s singular p plural	Degree c comparative s superlative n none
Adverb	B					
Conjunction	C	Type s subordinate c coordinate				
Preposition	P	Case g genitive d dative a accusative p indeterminate				
Particle	X					
Indeclinable noun	t					
Interjection	I					

The Modified BibleWorks Coding Scheme

This is the scheme used in the Greek New Testament Morphology Databases BYM, SCM and STM.
It is very close to the standard BibleWorks coding scheme .

Noun	n	Case n nominative g genitive d dative a accusative v vocative	Gender m masculine f feminine n neuter	Number s singular p plural

Pronoun	r	Type r relative e reciprocal d demonstrative c correlative q interrogative i indefinite	o correlative or interrogative x reflexive s possessive p personal	Case n nominative g genitive d dative a accusative v vocative	Gender m masculine f feminine n neuter	Number s singular p plural
Interjection	i					

4 『新・キリスト教辞典』

5 この書における「信仰」と言う言葉も神学的な、重みを持っている、もし仮に、著者がパウロだとすれば、「あなながたに理解しやすい言葉で」という意味で、実際、ヘブル書においては、信仰については語ることをやめ、それが日常生活にどのように反映するかに力点がおかれていることを、見て取ることができる

[6] バルトは、講演『啓示・教会・神学』（著作集 Vol.２）、p.278、新教出版社、1989
において、次のことは大切であるといっている．教会の概観が多様なものになろうとするときならなおさらである．

今何が行われ、我々は今何に感謝し、何にあずかろうとしているのか、常に吟味しなかったとしたらどうなるであろうか？と言うことである．美しい、賛美歌や、その他もろもろの、福音や、福音に重大な影響を与えるものは何なのか、常に吟味しなければ、見失われて行くもの多い、ということに思いは注がれないのである．

[7] ヘブル書においても多くの部分は、信仰者、しかも、試練にある人々に信仰にある生き方の大切さを語っている。大祭司にある愛の有効性は、よい羊飼いの声を聞くキリスト者の心の中に生きている。従って教会に集うものは、そのことを主張し、大祭司のように人の悩みを知り、優しくなるように。それはすべての人のために等しく成されたのだから．内に愛のあるキリスト者は「自己否定的ではない」。その愛によって「自己肯定的」に、キリストを主張するのである．今の時代は、このような迫害の時代ではない、けれども違う意味での迫害の時代である．政治的なものだけでなく、文化的、経済的な、誘惑がそのひとつであり、「問われない」というあいまいさがもたらす、教会の試練の時代である．